

# 第123回スポーツサイエンス研究会

グローバルCOEプログラム「アクティブ・ライフを創出するスポーツ科学」

日時 2013年6月3日(月) 12:10より

場所 早稲田大学 所沢キャンパス 100号館5F 第一会議室

**演題** 韓国における競技スポーツ政策の制度と実施過程に関する研究

金 永聖 先生  
(早稲田大学スポーツ科学学術院 助手)

韓国のスポーツ政策は、国によって競技スポーツ政策が重点的に行われてきた。例えば、1962年の国民体育振興法の制定、1982年のスポーツを専門に担当する中央行政機関である体育部(部は日本の省にあたる)の設置、1986年のアジア大会と1988年のソウルオリンピック競技大会の開催、1993年の国民体育振興5ヶ年計画の策定など、韓国においては、法令、行政組織、国際競技大会の誘致・開催、行政計画の実施など、具体的な制度や施策に基づいて国策として競技スポーツ政策が実施されてきた。

また、韓国における競技スポーツ政策は、メダル獲得率から見てみると、1984年のロサンゼルスオリンピック大会では世界10位、1988年のソウルオリンピック大会では世界4位、2008年の北京オリンピック大会では世界7位、2012年のロンドンオリンピック大会では世界5位と世界的にみても優秀な競技成績を残している。しかし、なぜ韓国がこのような顕著な成果をあげているのか、その制度的または政策的な要因については十分な研究は行われていない。

本研究会では、韓国のスポーツ政策の中でも最も重点的に実施されていると考えられるこの競技スポーツ政策を対象に、韓国におけるスポーツに関する基本的な制度において、実際に競技スポーツ政策がどのように位置づけられ実施されているのかについて紹介する。



早稲田大学 スポーツ科学学術院  
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

世話人: 正木宏明・紙上敬太  
早稲田大学 スポーツ科学学術院  
E-mail: k-kamijo@aoni.waseda.jp